

Personal Place Design

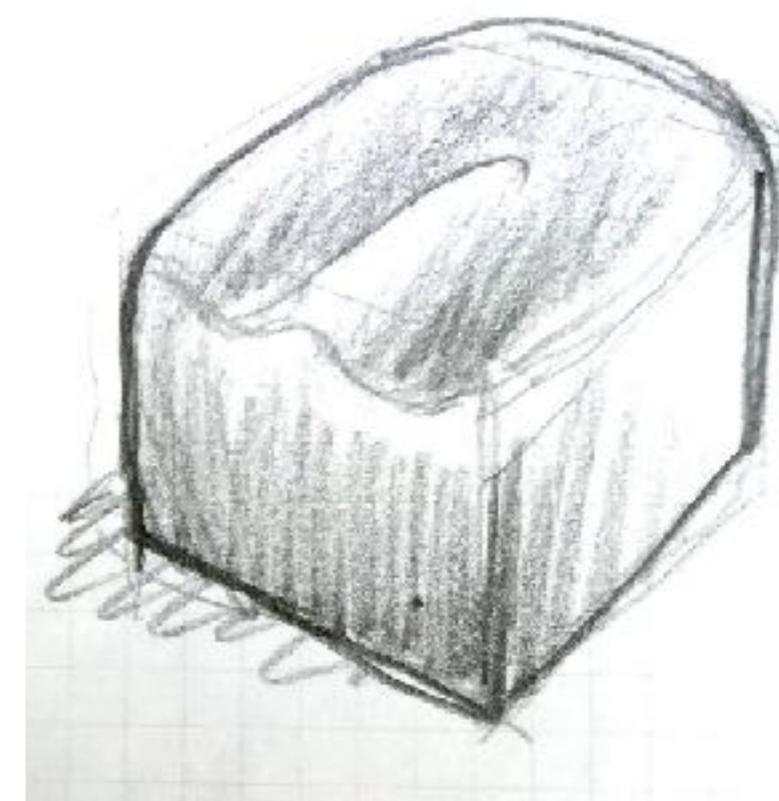
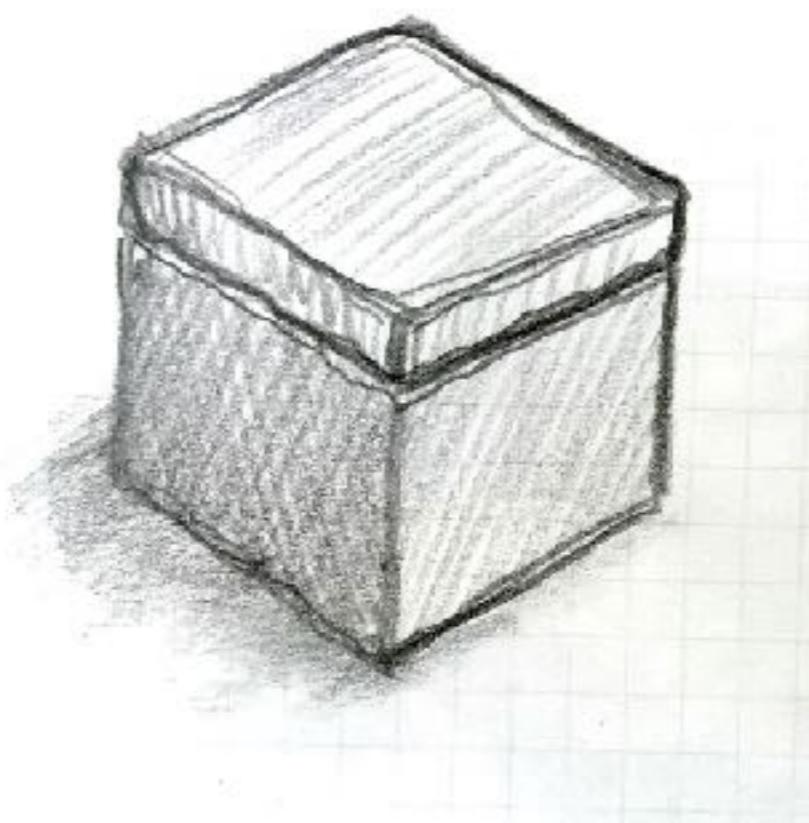
第4回

2018. 05. 07

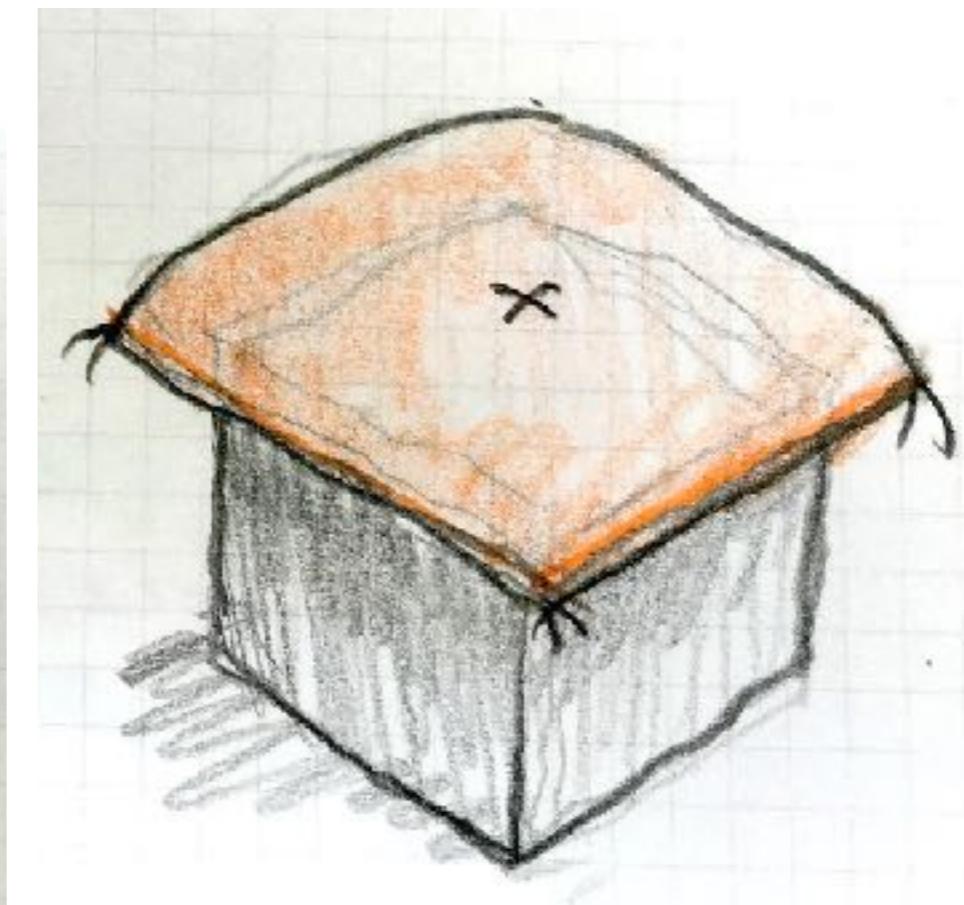
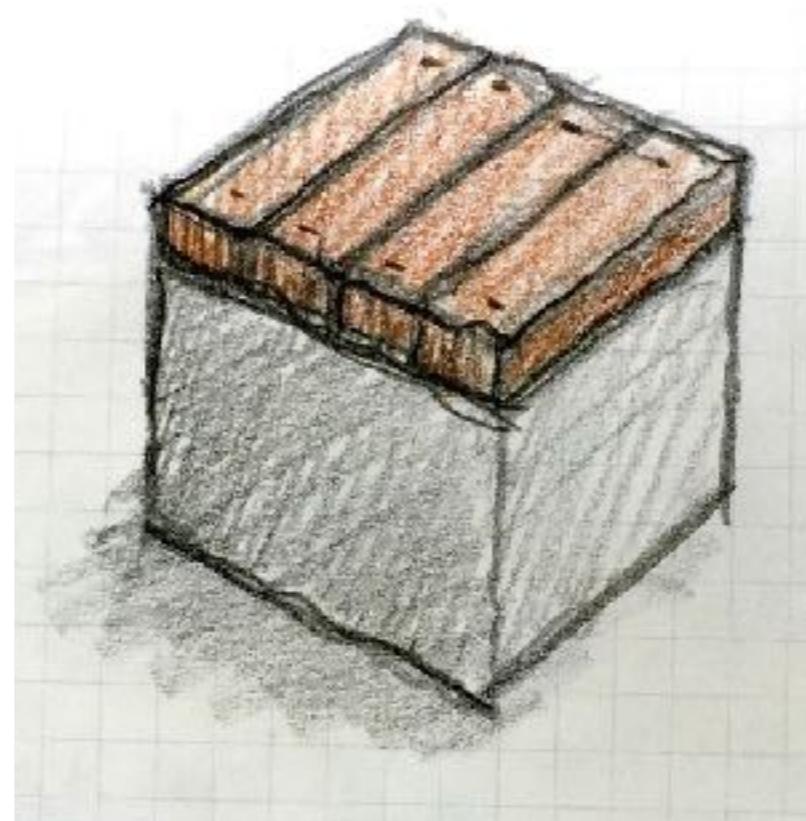
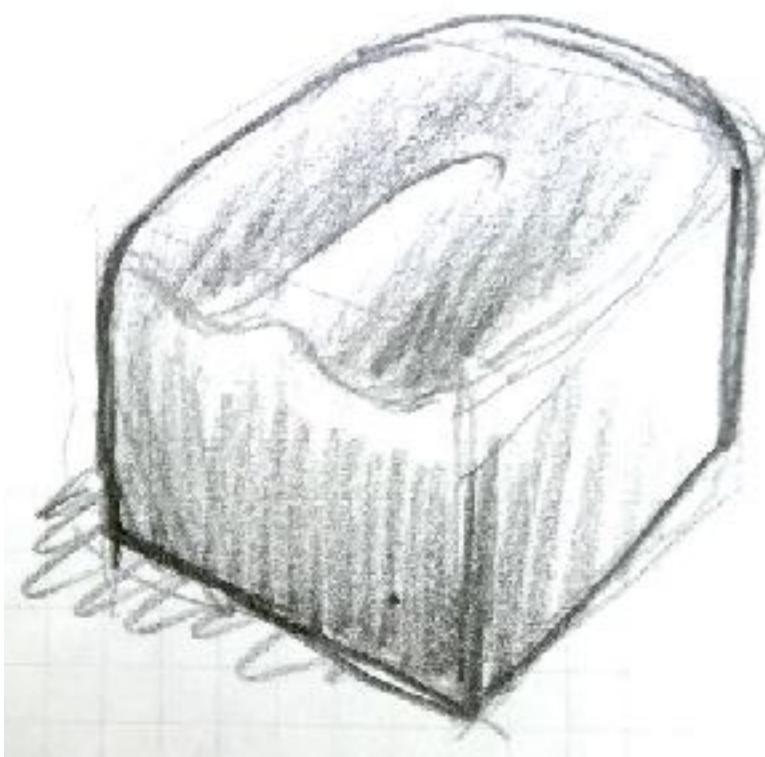
「すわりうる物体」：

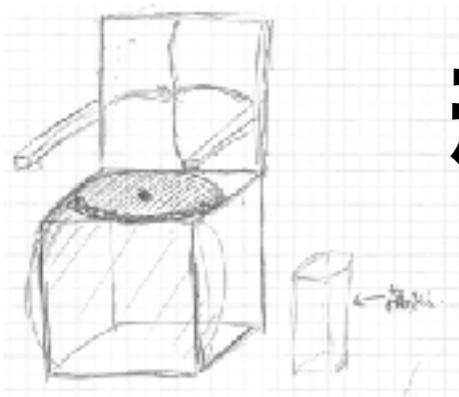
400mm×400mm×400mm

形態の操作：彫刻的フォルム



形態の操作：「座面」の付加

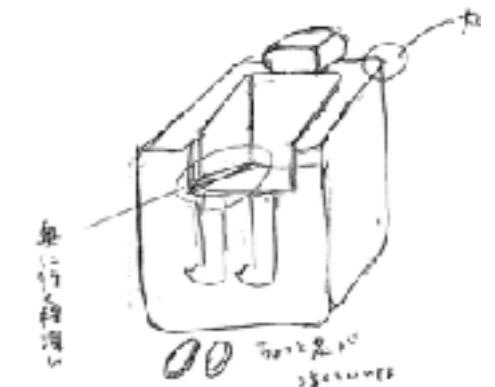
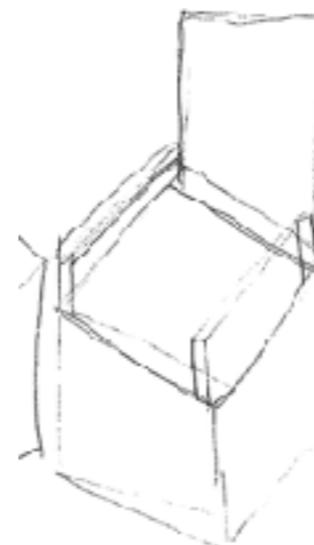
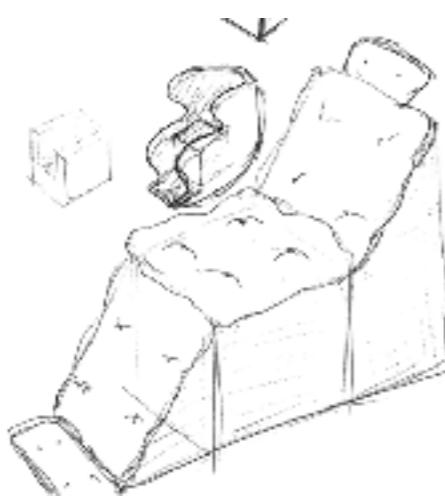


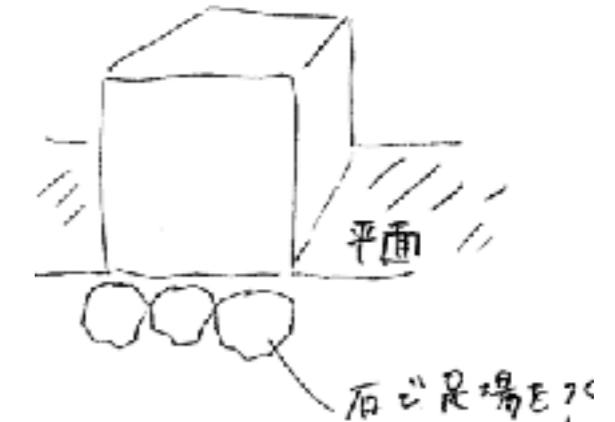
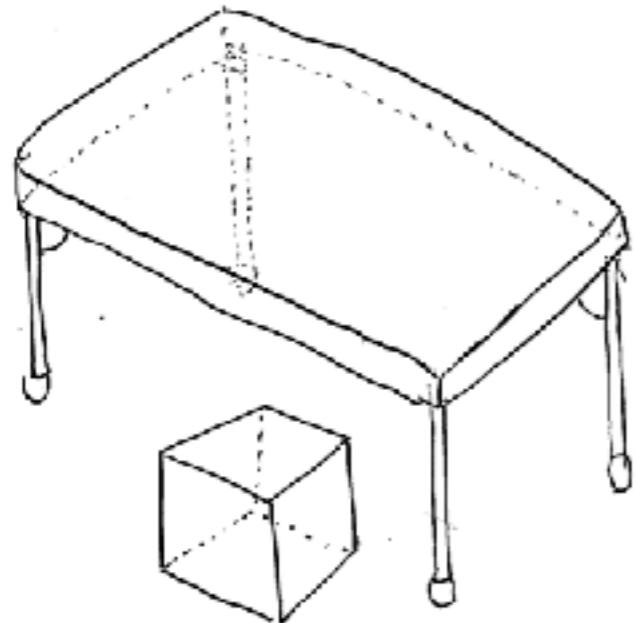


形態の操作：「椅子性」の付加



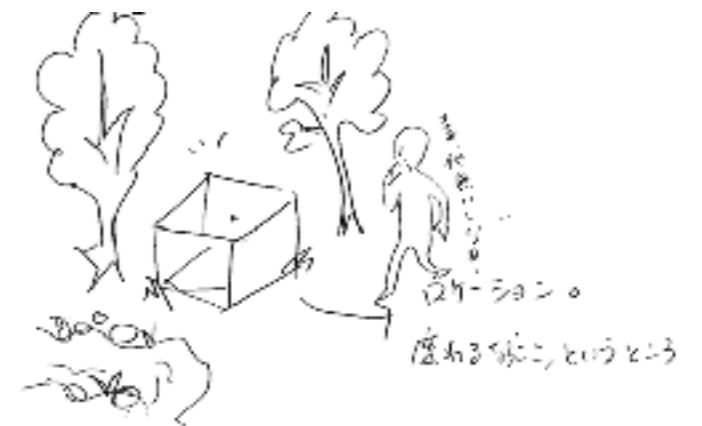
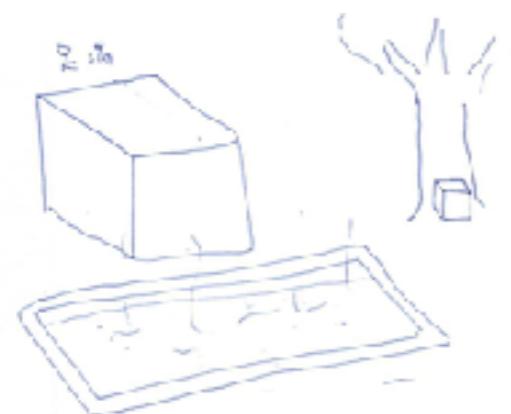
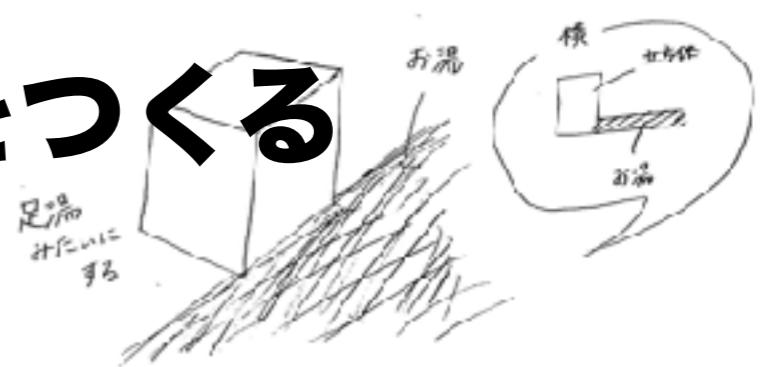
明示が強いほど用途が特化される

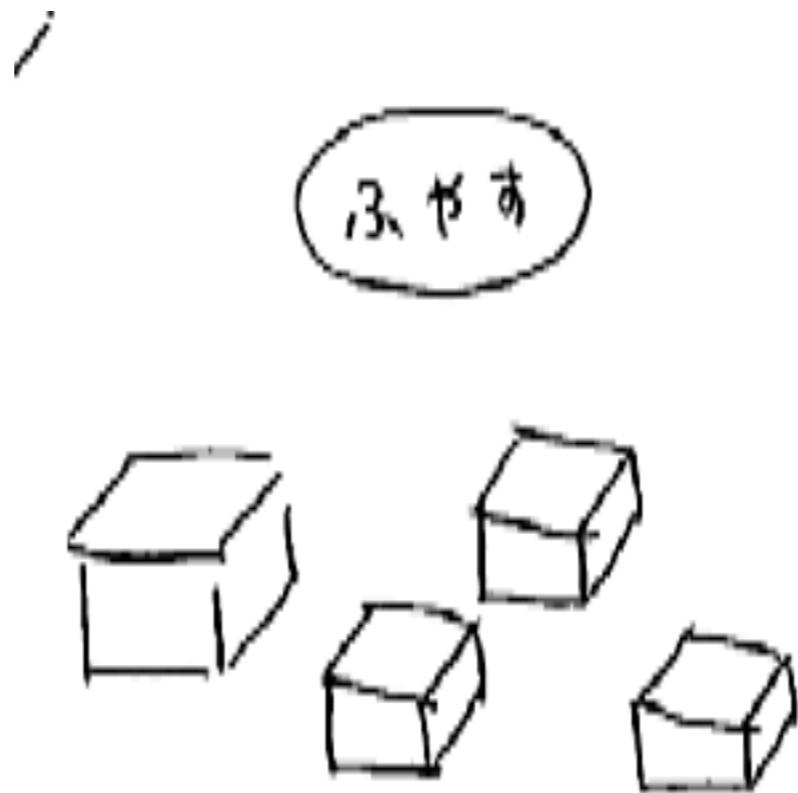




空間の操作：座る状況をつくる

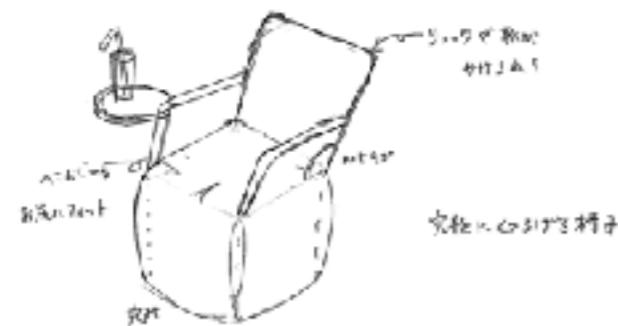
(3.4)



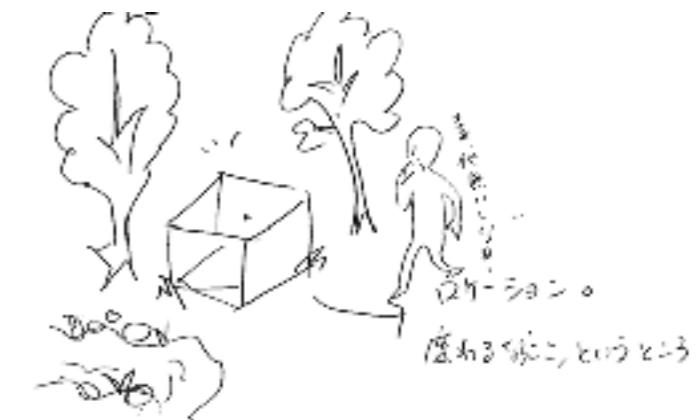


複数あるということ：数量、配置（列状、環状…）
空間への操作のバリエーション

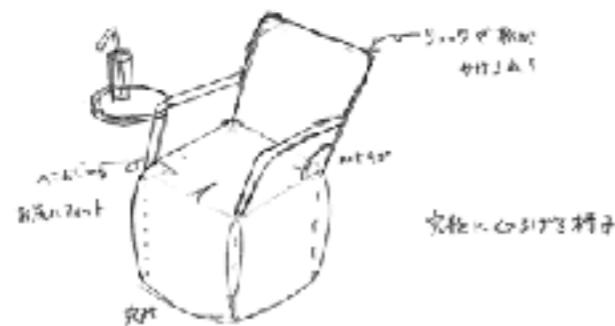
局所的



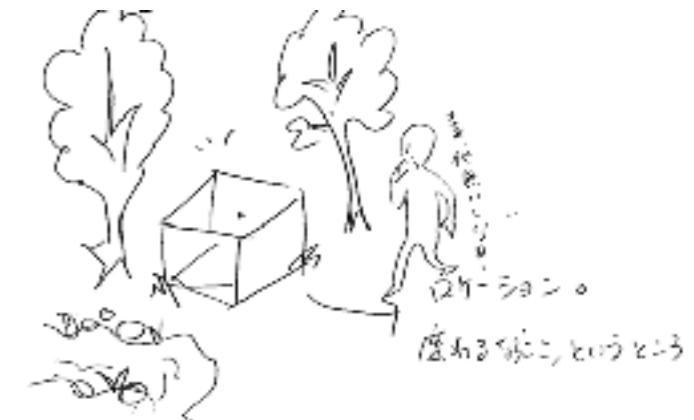
広域的



局所的



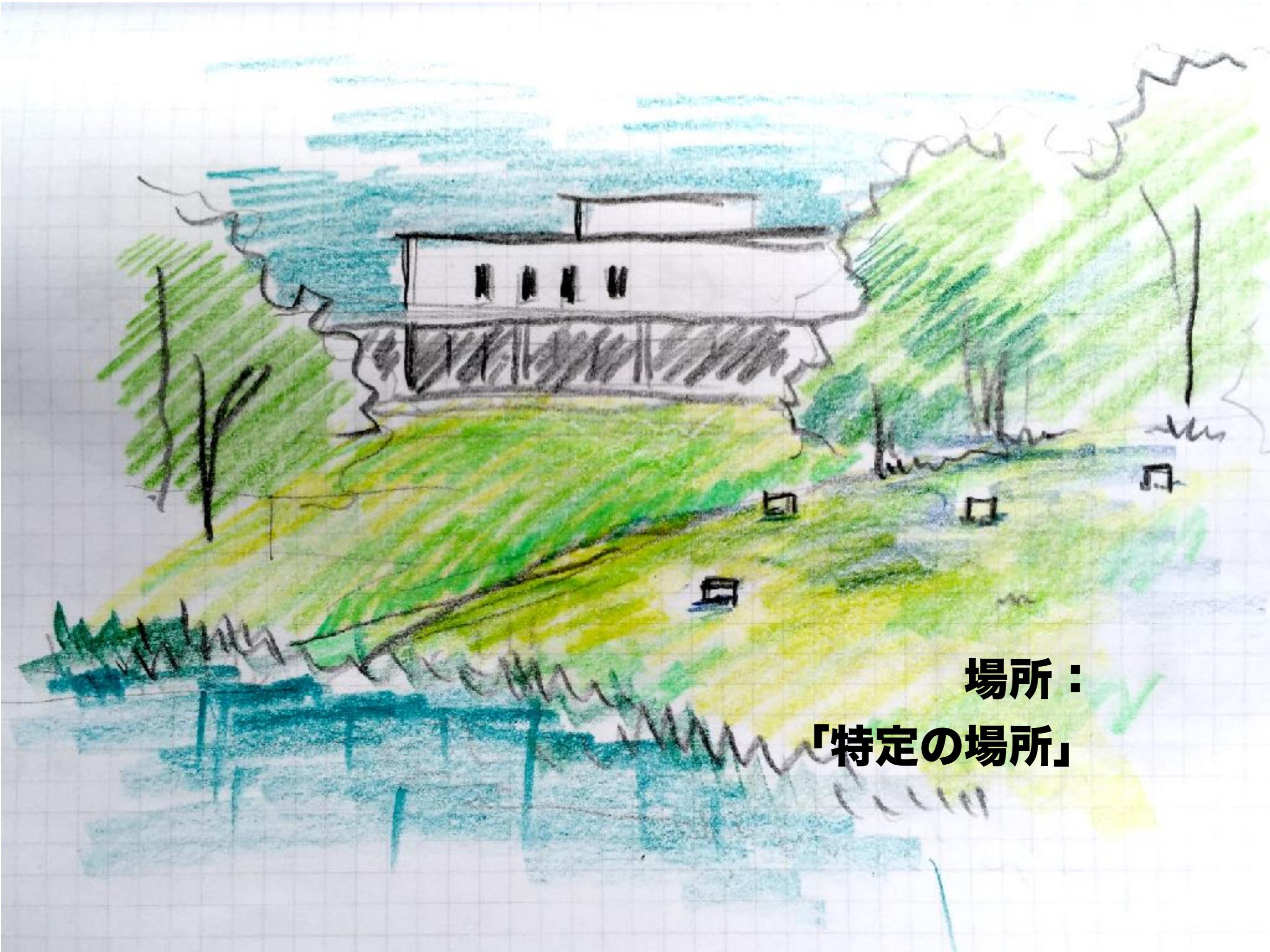
広域的



物体

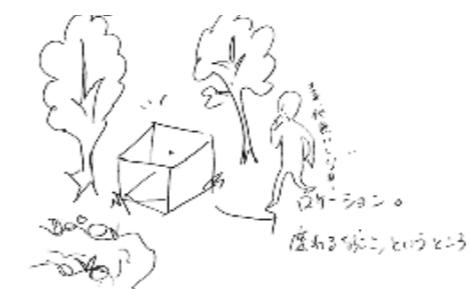
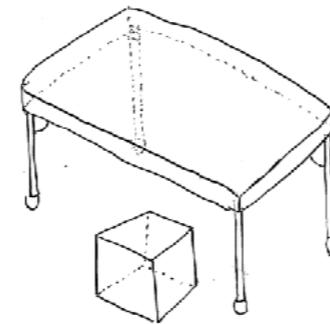
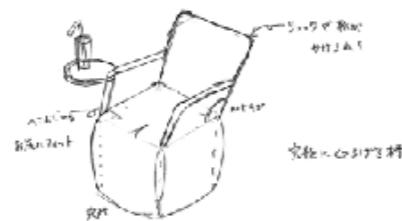
空間





**場所：
「特定の場所」**

局所的



広域的



物体

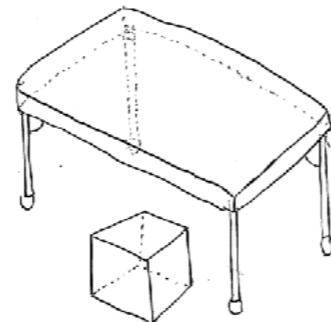
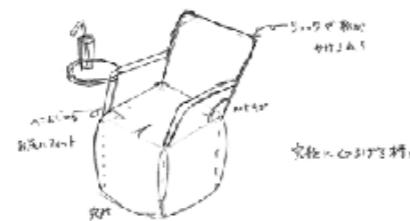
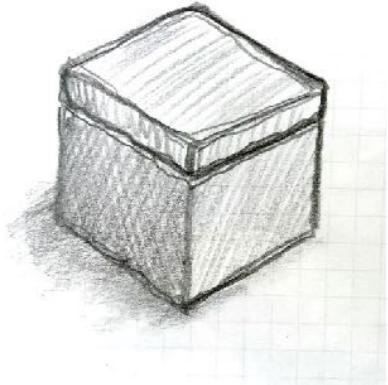
空間

場所



局所的

おかげ下さい



広域的

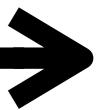


記号

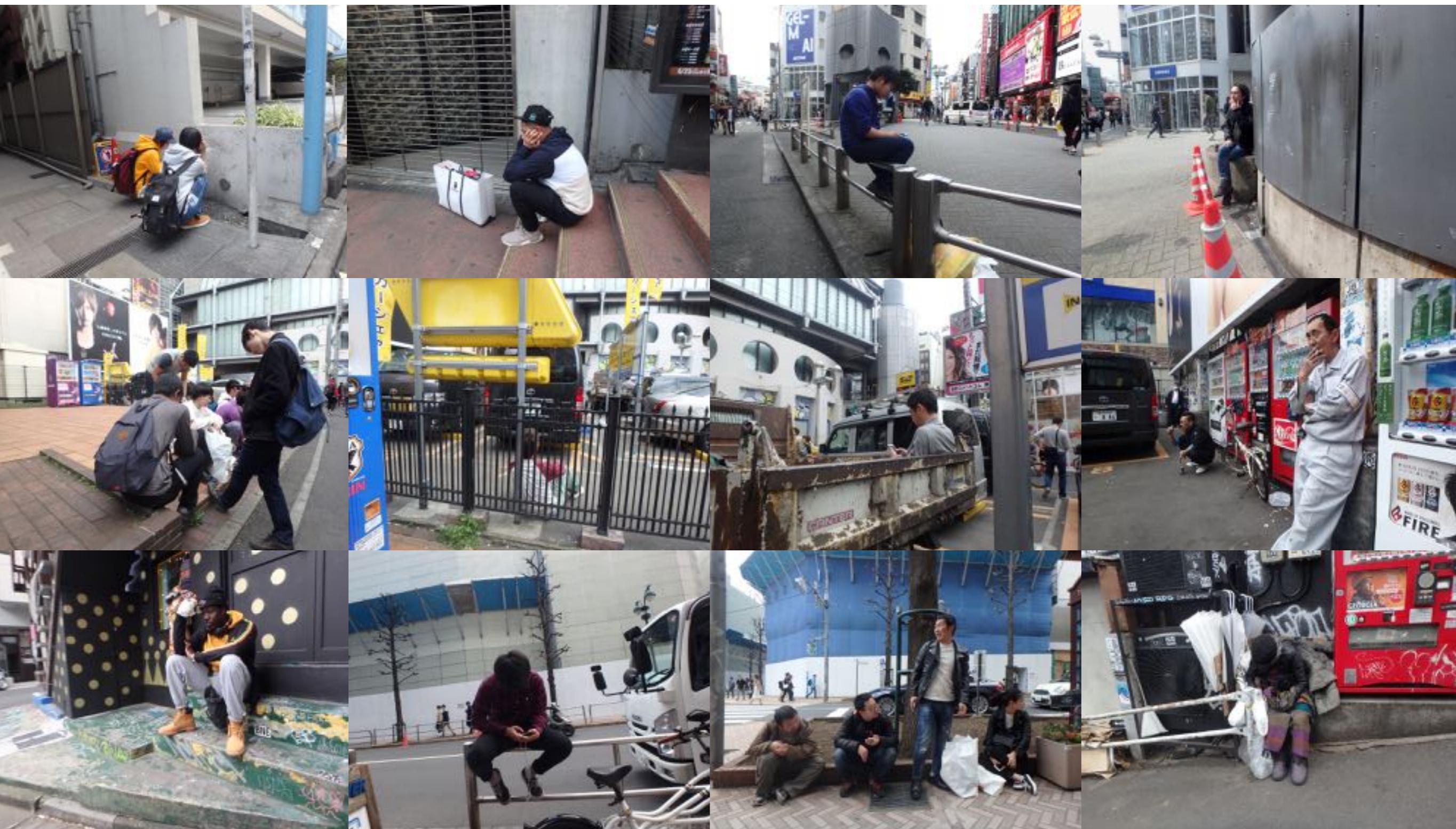
物体

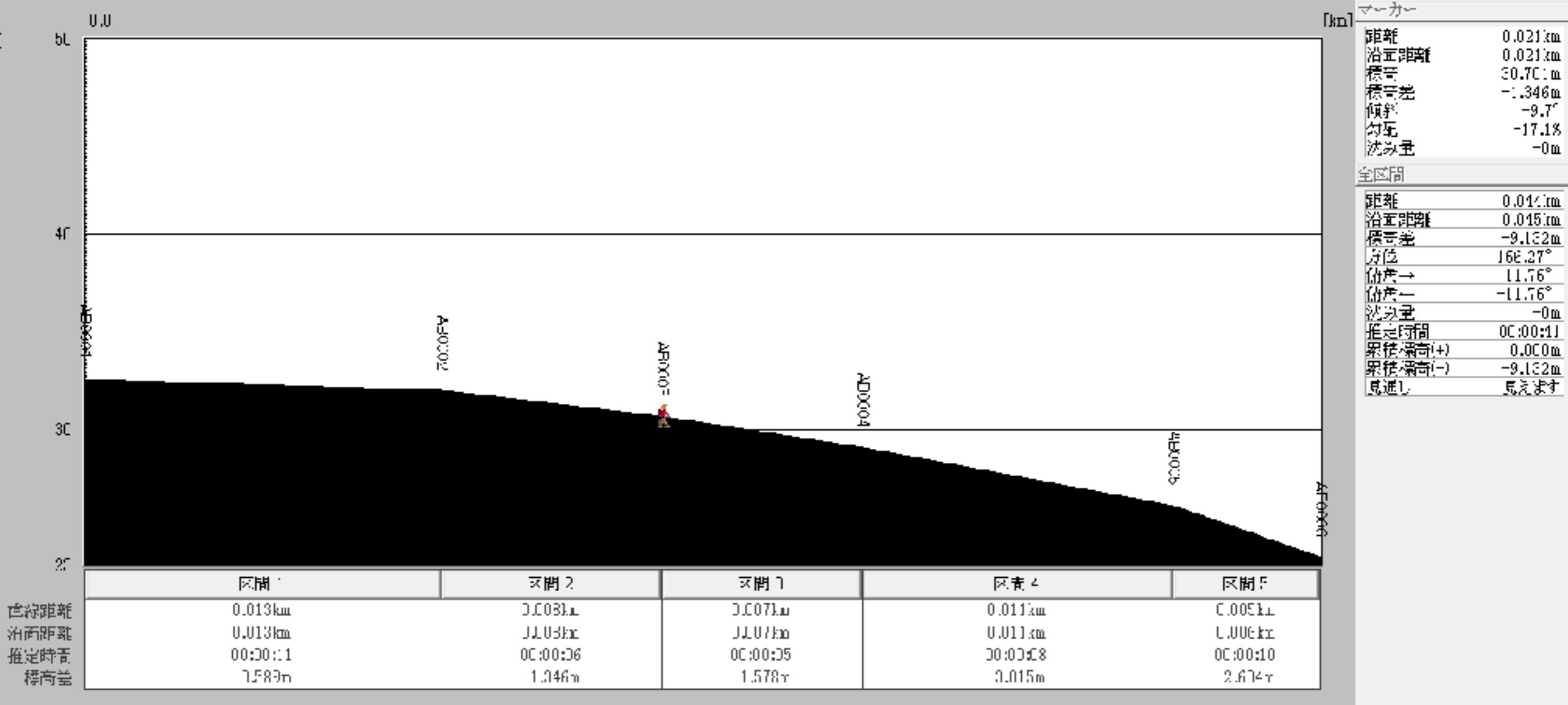
空間

場所



座られている場面

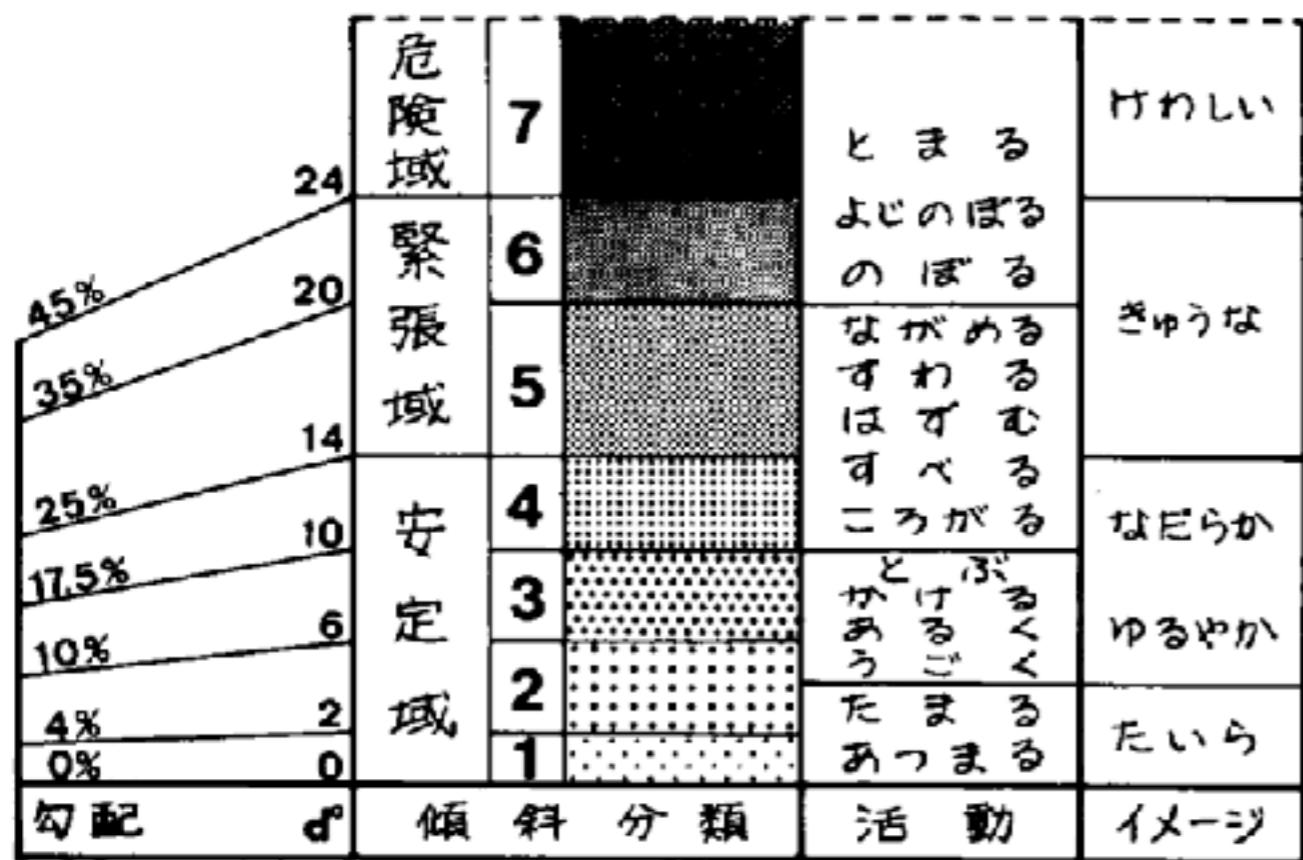




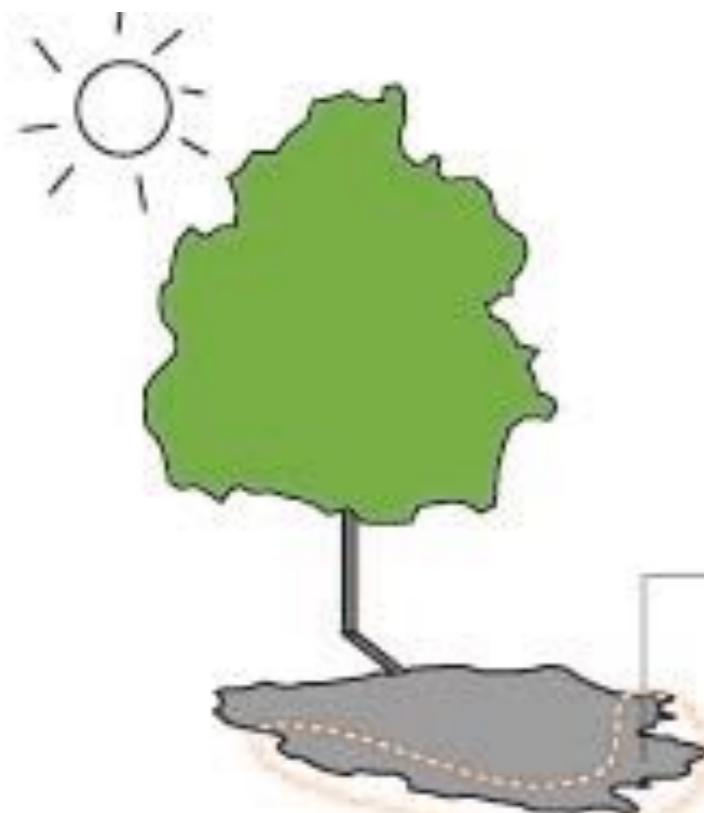
**鴨池北岸の芝生斜面上部、
平均斜度9.7°（17.1%）**

国土地理院5mメッシュ標高データによる簡易計測

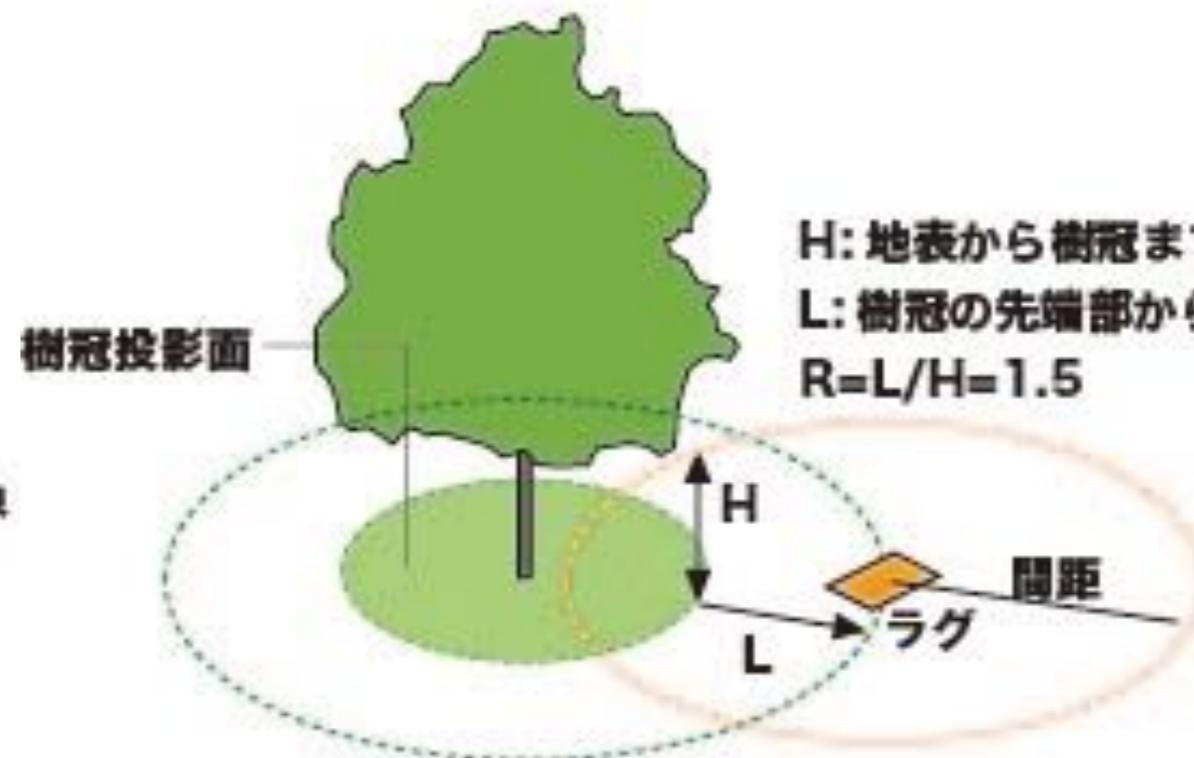
第3図



- 1 - 平坦域 (メンタル水平域)
 $0^\circ \sim 2^\circ$ 視覚的・肉体的あるいは土地利用に於いても殆んど平坦と同じである。
- 2 - 安定傾斜域 I
 $2^\circ \sim 6^\circ$ あまり傾斜を意識せず、無意識のまま斜面の効果をうける。斜面行動を促進。
- 3 - 安定傾斜域 II
 $6^\circ \sim 10^\circ$ 斜面の持つ効果が十分生かされ、運動など動的利用と休息など静的利用の両面に有効である。斜面行動に最適。
- 4 - 安定傾斜域 III
 $10^\circ \sim 14^\circ$ 斜度の支配が大きくあらわれはじめ、やや意識的な利用となる。斜面行動を制約。
- 5 - 緊張傾斜域 I
 $14^\circ \sim 20^\circ$ 斜面の方向性や物体へ動きを与える作用が強くなり、積極的な活動以外には眺望中心の利用となる。
- 6 - 緊張傾斜域 II
 $20^\circ \sim 24^\circ$ 物理的に大きな影響をうけ、よじのぼるなど緊張感を積極的にうけようとする活動にのみ利用される。
- 7 - 危険傾斜域 (メンタル垂直域)
 24° 以上 人間だけでなく、斜面自身の安定を欠き特別な処理を必要とする。



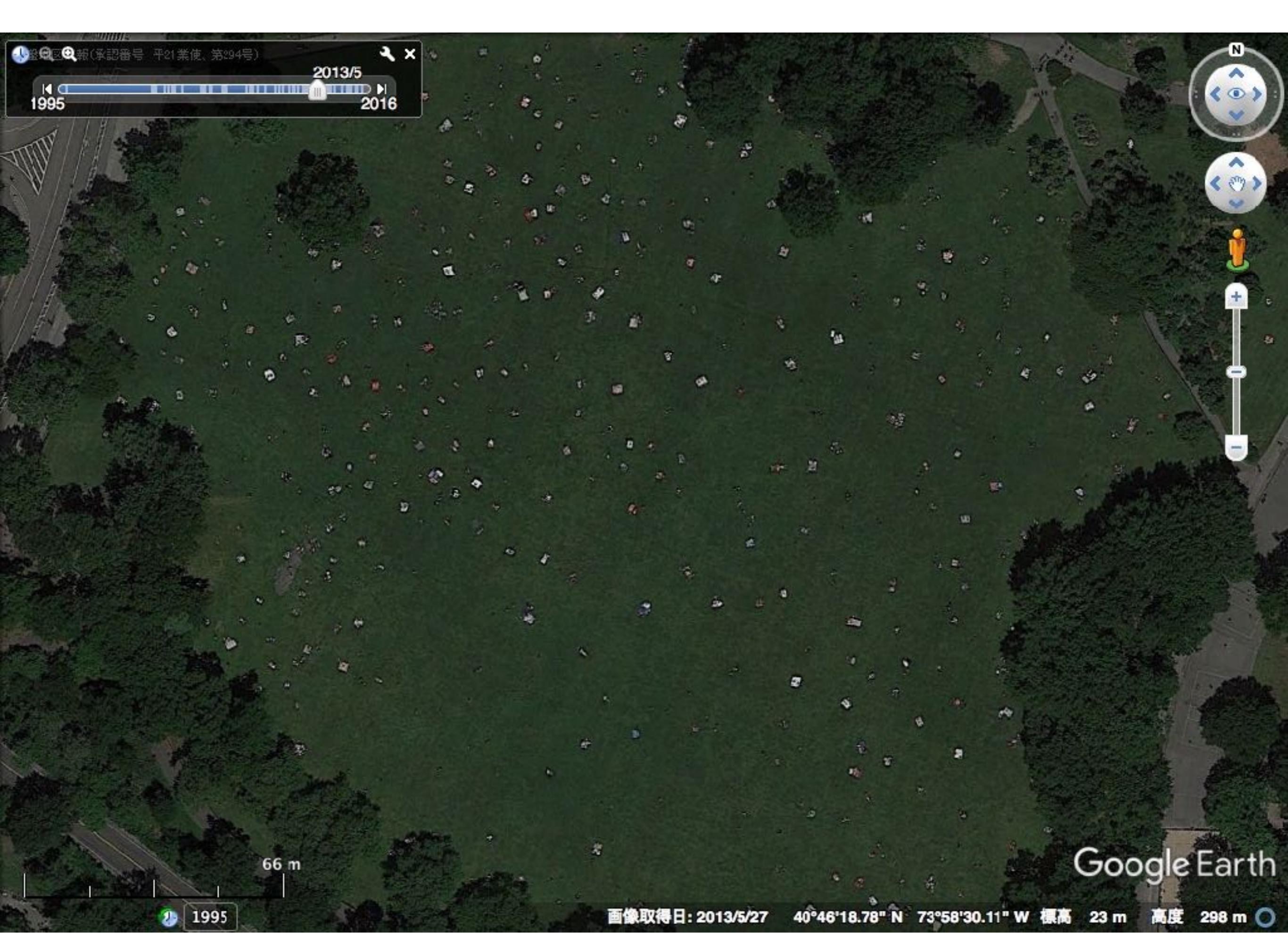
木陰と占有位置の関係 *a



樹木と占有位置との関係 *b

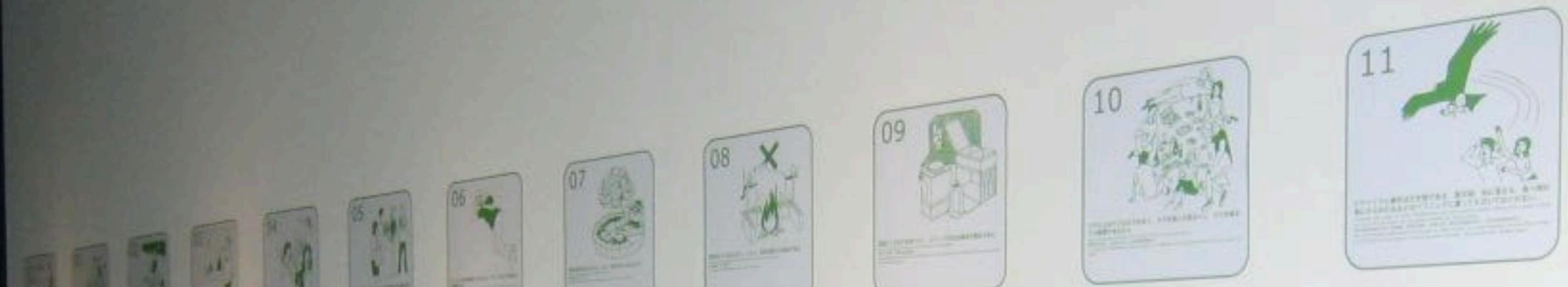
公園の静的利用者のうち、約8割が樹林と芝生の境目、「林縁部」に集中し、樹木に対して、樹冠(樹木上部の枝が広がった部分)の先端に対して、その高さの約1.5倍の距離をとって腰を下ろすことが観察されている。

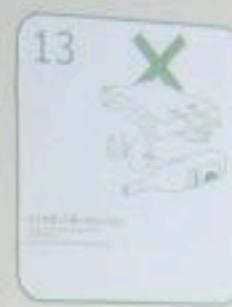
また、樹木の影に対しては、影の先端部、陽の照っている部分と影との境界領域を占有する割合が最も高い。





「すわりうる」状況 としての芝生







「すわりうる」：
「座る」が明示されていない
座る人が発見する
潜在的特性



「すわる施設／装置」：
「座る」が明示されている
座る人は発見するまでもない

その意味が明示されている：

ひと目でその意味や機能を認識できる様子

有意識的・自覚的に対象の意味が伝達されること



←座る施設だということを、
自他共に了解している
(通じるつもりで設置している)

形態としての明示：

期待される機能と様子が一致

「わかりやすい」 「らしい」



**あるものは一瞥で「座る」とわかる。
あるものはわかりにくい。**

→明示的／非明示的（暗示的）



明示的であること：利用の仕方を限定し、姿勢を強いる





明示的な記号で埋まった景観

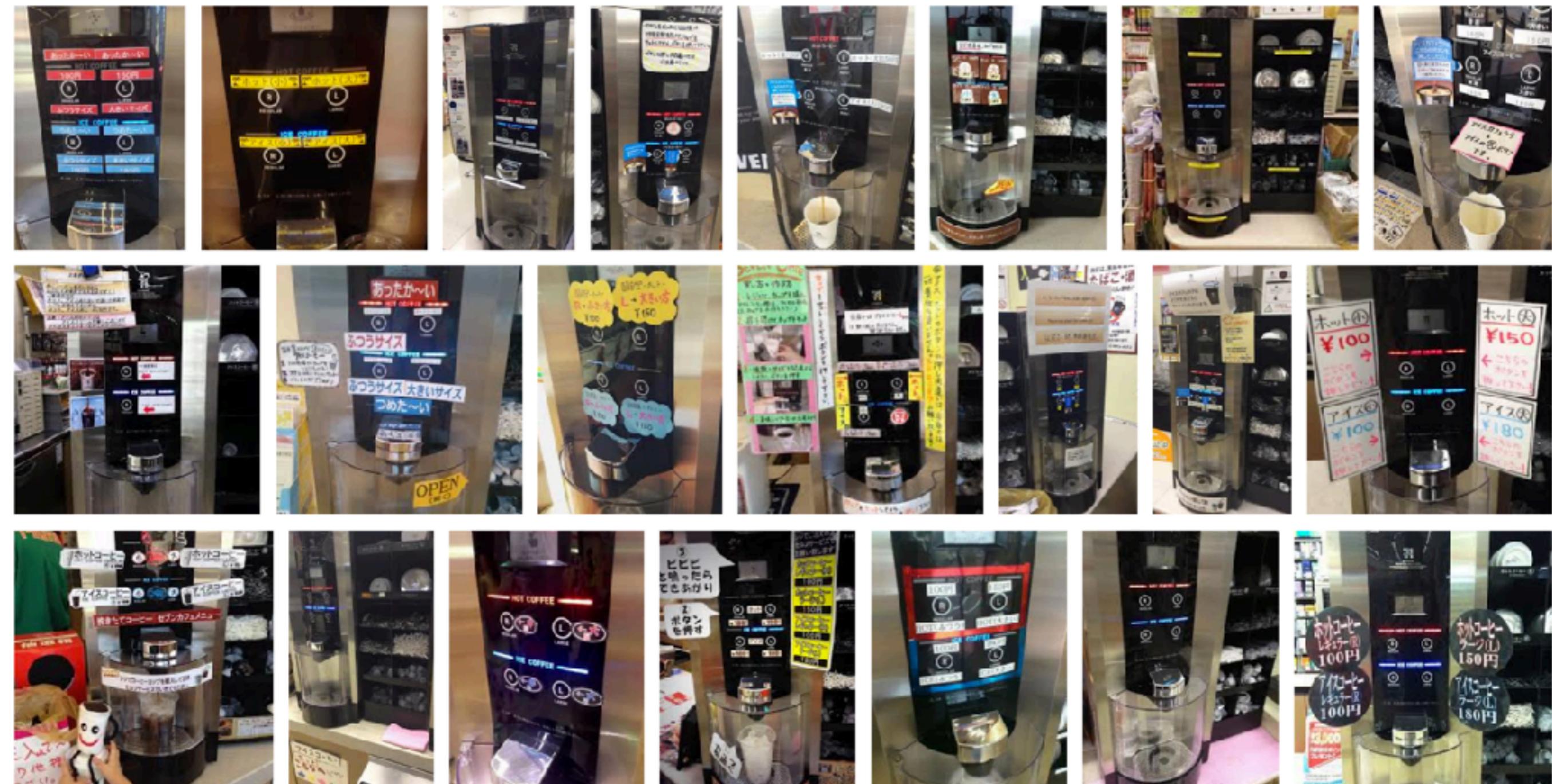


明示的な記号で埋まった景観



明示的な記号はしばしば現場
で施工された仮設である





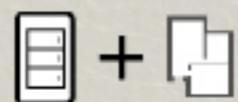
テプラ問題



テ
レ
ビ
モ
ー
ド

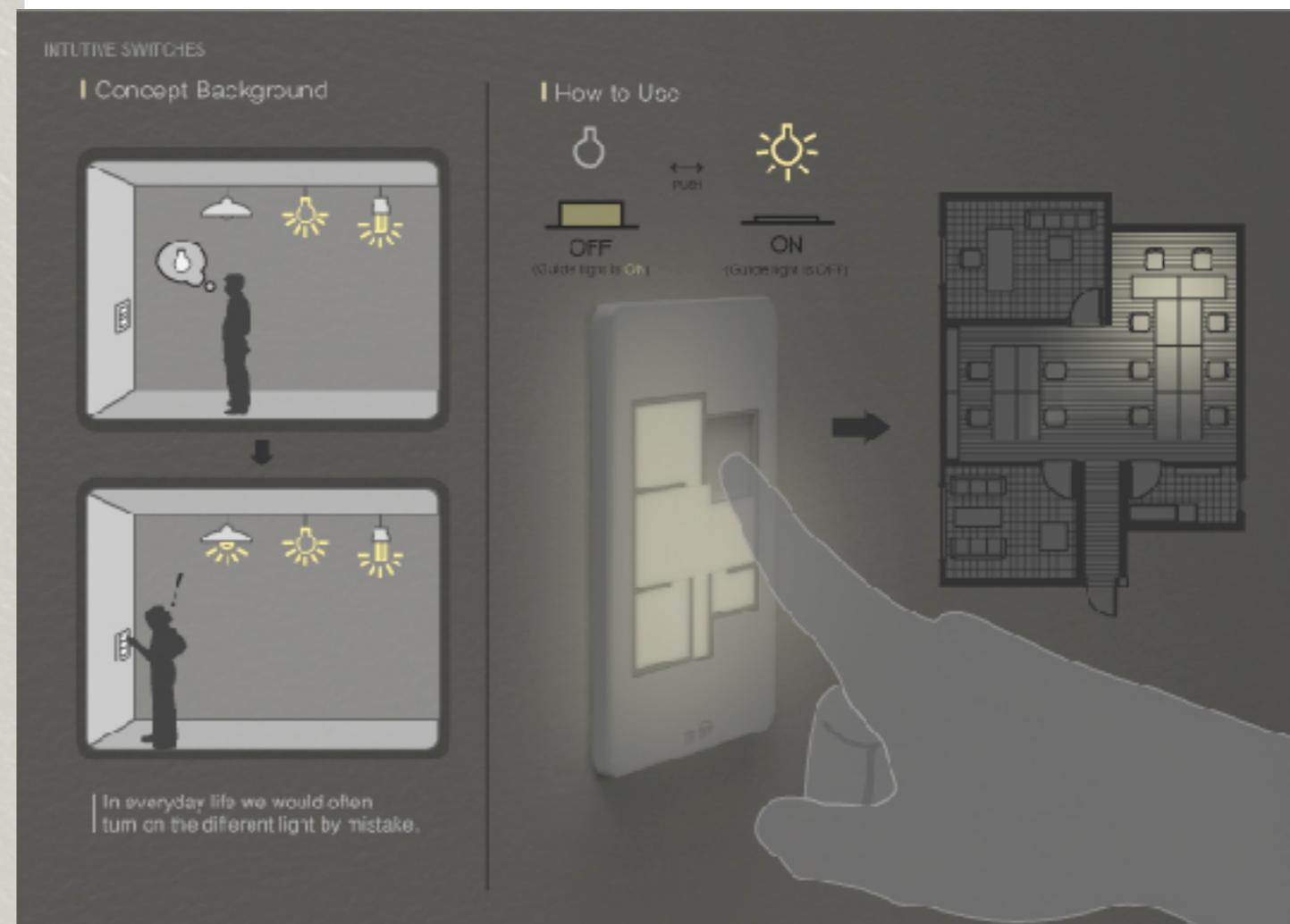
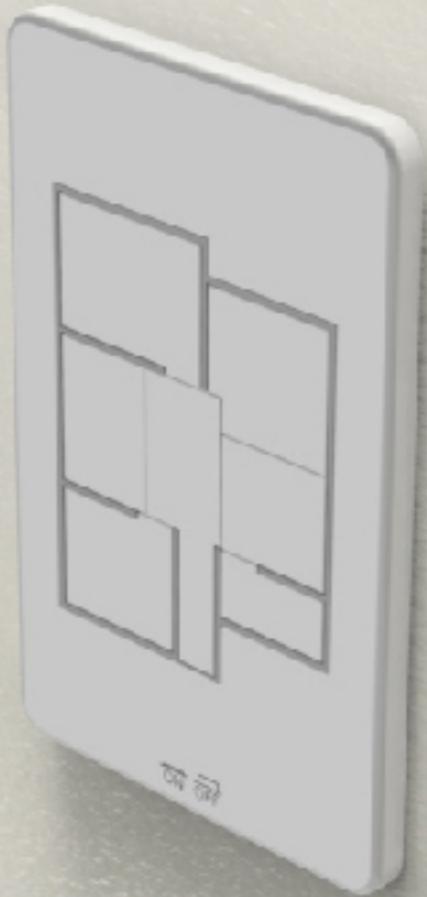
最終選出者は
を確認





FLOOR PLAN LIGHT SWITCH

Don't be confused anymore.



floor plan light switch by Taewon Hwang from korea
<http://www.designboom.com/project/floor-plan-light-switch/>



「デザインの敗北」？

テプラ的なもの：

- ・装置／施設を補完する
 - ・現場で修繕として仮設される
(むしろ元のデザインを尊重している?)
 - ・使用者からのフィードバックである
- • •

デザインの問題：実空間との対応性・整合性
(設計の不足・時間的推移による陳腐化)

貼り紙コミュニケーション

新垣紀子 「貼り紙コミュニケーション」 コミュニケーションの認知心理学、ナカニシヤ出版、2013

認知レベルの支援 個人的なレベルでの道具と人の間に発生する問題の解決

- ・ユーザーの知覚を補助する 装置のサインの意図を補強する
- ・ユーザーの作業記憶を助ける ケーブルの種類、棚のドアの中身など
- ・ユーザーの知識を補う ユーザーのもっているそのシステムに対する知識を補う。ルール、機能の例外など
- ・ユーザーの行動レベルの操作 電子レンジの手順を番号で示すなど

社会レベルの支援 社会の状況を伝えることによる問題解決に役立つ支援

- ・社会の状況の変化 従来のシステムに基づいたメンタルモデルとは異なる新しいシステムの登場、
新幹線の自動改札など
- ・他者の利用量 他者の利用状況を知らせすることでアクティブなものを告げる 「新宿〇〇円」など

建築設計資料集成 丸善、2003

「人間」 「物品」

建築設計に必須の図面集 全14冊完結！

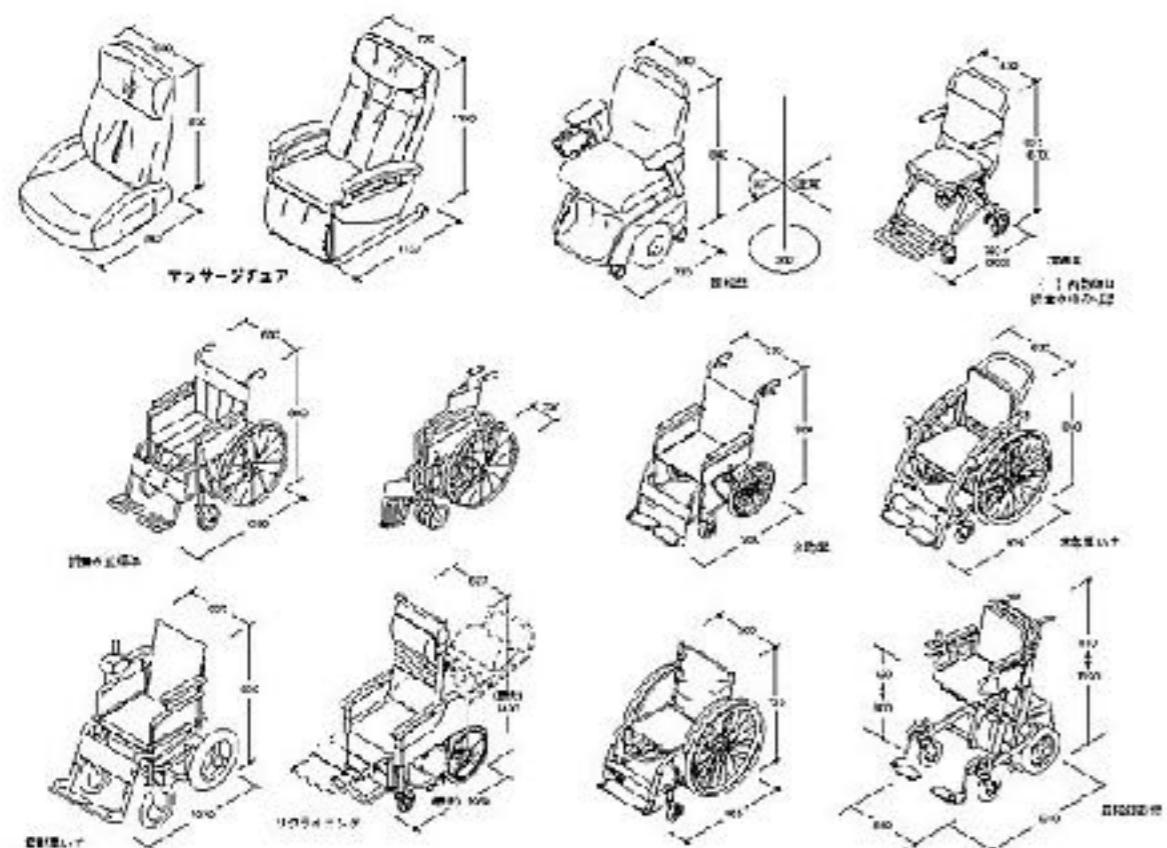
建築設計資料集成

日本建築学会 編

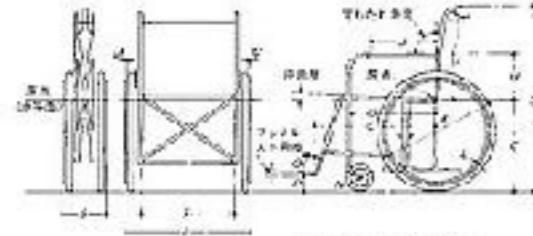


序より掲載

建築設計資料集成小史にみるとおり、日本建築学会における本集成には長い歴史がある。前回の大改訂が完結して、早17年余りが経過した世紀の変わり目に今回の全面改訂の一歩を踏み出したことに偶然と必然の機運を感じざるを得ない。2000年6月に日本建築学会をはじめ建築関連5団体が制定した「地球環境・建築憲章」が提起しているように、地球環境に配慮し、持続可能な循環型社会の実現に向けて、建築や都市の企て方、作り方、使い方、継(ツナ)ぎ方に発想の転換が求められている。大袈裟にいえば近代主義的建築の設計方法の超克という課題に今、直面しているのである。変革はこれからできるであろう新しい建築だけに留まらず、既存のストックの評価、再生の考え方にも及ぶのは必定であろう。このような見方からすれば建築設計資料集成の改訂も構造物の更新に準えられる。設計に必要な資料には、時間的に安定しつつ必要度の高いものもあれば、研究・技術・実践によって生み出された新しい資料も日々蓄積されている。これまででは「設計や技術研究の目覚ましい開発」の成果を盛り込んだ資料の全面的更新、拡充を目指した改訂が行われてきた。そ

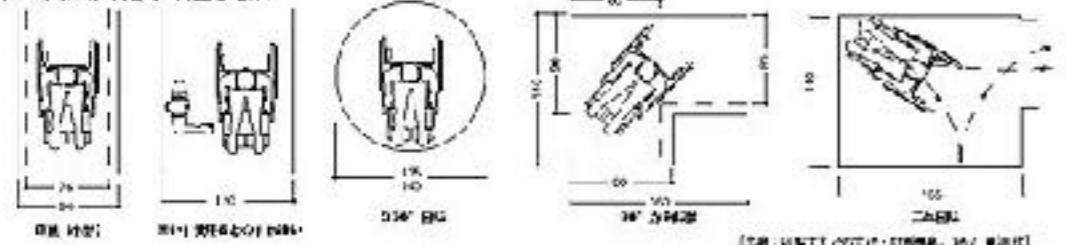


三

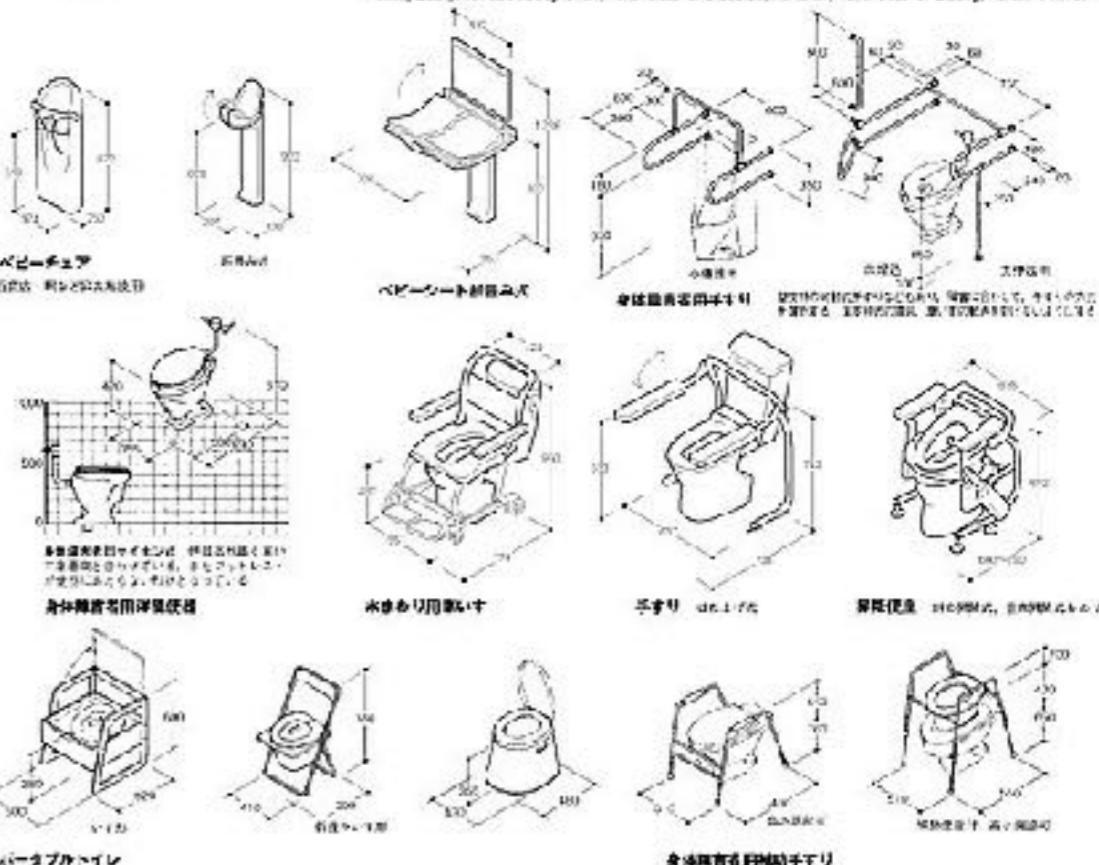


第1章 第1回

車いす使用者のための運転寸法



~~Chair, Bath, Sidechair; Baby Chair, Toilet Seat or Diapered, Head of, Toilet Seat for Elderly, Portable Toilet~~



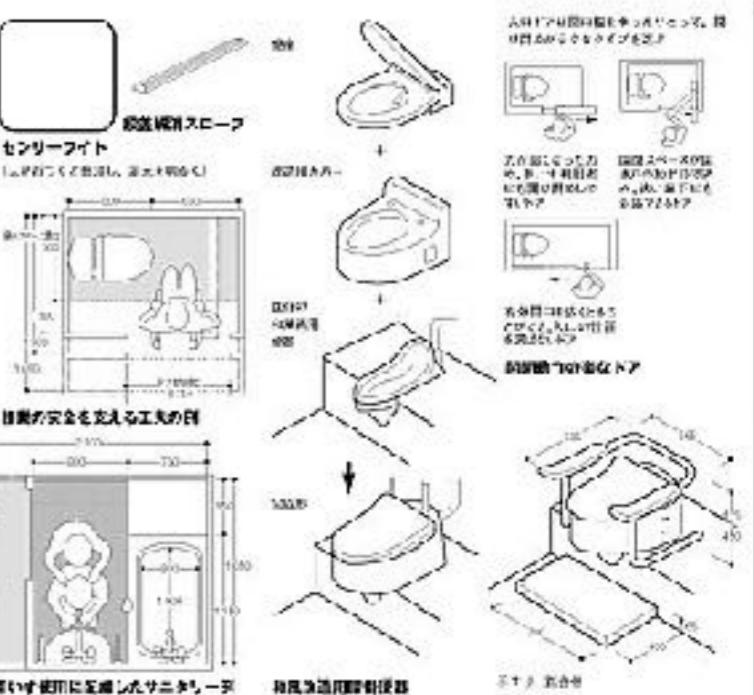
サニタリー空間の実験者配慮

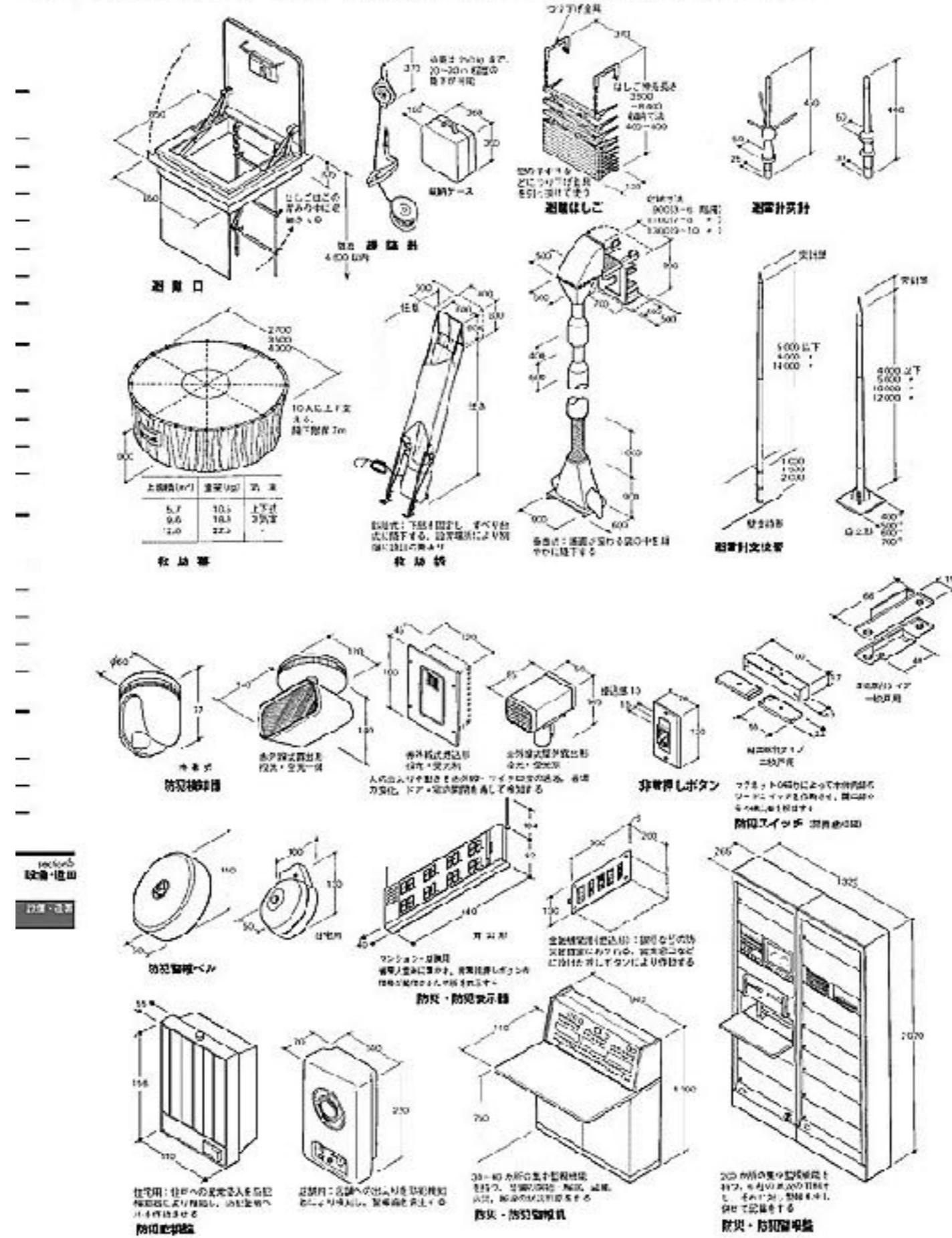
高齢者のための生活の質のために
は、医療で使いたいセミナー空
間を大変に喜んでます。

会員登録等の手続用に必要な度合を確認し、登録を個別実行(トスレーダー・ショット)を避けた記載用が必要となる。

生え二社可い手で見える幅とし、操作の要は深さを測定してお入り技術の指針を軽視する。

一方、色彩空間の構成は、明るさ・色彩計画の配慮も不可欠である。





**次週は、教室を出て屋外を歩く
可能性があります。**

- ・歩きやすい格好で。
- ・巻き尺、または物差しを持参してください。
コンベックス推奨。

次週までの課題（宿題）

前回の宿題「座られている場面」で観察した場所を再度観察し、そこを「より座りやすく見える」ように改造／改修する提案を考えてください。
写真＋イラスト、テキストなどで意図を説明してください。

- ・明示性の低い形態操作
- ・なるべく施設化を避ける

を心がけてみよう。

A4紙を縦に使って、次週に持参、提出してください